

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和2年8月20日(2020.8.20)

【公表番号】特表2019-514895(P2019-514895A)

【公表日】令和1年6月6日(2019.6.6)

【年通号数】公開・登録公報2019-021

【出願番号】特願2018-555682(P2018-555682)

【国際特許分類】

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/16 (2006.01)

A 6 1 K 38/10 (2006.01)

C 0 7 K 14/725 (2006.01)

C 1 2 N 15/12 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 14/47 Z N A

A 6 1 P 37/02

A 6 1 P 25/00

A 6 1 K 38/16

A 6 1 K 38/10

C 0 7 K 14/725

C 1 2 N 15/12

【手続補正書】

【提出日】令和2年7月3日(2020.7.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

医薬の製造のための、[FWYHT]-X(2)-[VILM]-X(2)-[FWYHT][配列番号60]配列モチーフを有する抗原のCD1d結合ペプチドエピトープと、前記エピトープに直接接している又は前記エピトープから最大で7アミノ酸により隔てられた[HW]-X(0,2)-C-X(2)-[CST]([配列番号1]、[配列番号2]、[配列番号3])、若しくは[CST]-X(2)-C-X(0,2)-[HW]([配列番号4]、[配列番号5]、[配列番号6])レドックスモチーフ配列とを含む、12～100アミノ酸の単離免疫原性ペプチドの使用。

【請求項2】

前記抗原が、その配列中、前記レドックスモチーフの10アミノ酸の距離内に前記CD1d結合ペプチドモチーフを含有しない、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

前記抗原が、その配列中、前記エピトープの10アミノ酸の距離内に前記レドックスモチーフを含有しない、請求項1に記載の使用。

【請求項4】

CD1d結合ペプチド配列モチーフが、[FWY]-X(2)-[VILM]-X(2)-[FWY][配列番号63]である、請求項1から3のいずれか一項に記載の使用。

【請求項5】

レドックスモチーフが、[HW]-C-X(2)-[CST][配列番号1]又は[CST]-X(2)-C-[HW][配列番号4]である、請求項1から4のいずれか一項に記載の使用。

【請求項6】

レドックスモチーフが、[HW]-C-X(2)-C[配列番号7]又はC-X(2)-C-[HW][配列番号10]である、請求項1から5のいずれか一項に記載の使用。

【請求項7】

レドックスモチーフが、H-C-X(2)-C[配列番号48]又はC-X(2)-C-H[配列番号42]である、請求項1から6のいずれか一項に記載の使用。

【請求項8】

前記ペプチドが、12～50アミノ酸の長さを有する、請求項1から7のいずれか一項に記載の使用。

【請求項9】

前記エピトープが、MOG NKTエピトープFLRVPCWKIを含む、請求項1から8のいずれか一項に記載の使用。

【請求項10】

前記ペプチドが、配列GGFLRVPCWKI[配列番号85]を含む；配列CGPCGGFLRVPCWKI[配列番号86]を含む；配列HCGPCGGFLRVPCWKI[配列番号87]を含む；又は配列WCGPCGGFLRVPCWKI[配列番号88]を含む、請求項1から9のいずれか一項に記載の使用。

【請求項11】

前記医薬が、多発性硬化症の治療に使用するものである、請求項1から10のいずれか一項に記載の使用。

【請求項12】

[FWYHT]-X(2)-[VILM]-X(2)-[FWYHT][配列番号60]配列モチーフを有する抗原のCD1d結合ペプチドエピトープと、前記エピトープに直接接している又は前記エピトープから最大で7アミノ酸により隔てられた[HW]-X(0,2)-C-X(2)-[CST]([配列番号1]、[配列番号2]、[配列番号3])若しくは[CST]-X(2)-C-X(0,2)-[HW]([配列番号4]、[配列番号5]、[配列番号6])レドックスモチーフ配列とを含む、12～100アミノ酸の単離免疫原性ペプチド。

【請求項13】

前記抗原が、その配列中、前記エピトープの10アミノ酸の距離内に前記レドックスモチーフを含有しない、または前記抗原が、その配列中、前記エピトープの10アミノ酸の距離内に前記レドックスモチーフを含有しない、請求項12に記載のペプチド。

【請求項14】

前記ペプチドが、12～50アミノ酸の長さを有する、請求項12又は13に記載のペプチド。

【請求項15】

レドックスモチーフ配列が、[HW]-C-X(2)-[CST][配列番号1]又は[CST]-X(2)-C-[HW][配列番号4]である、請求項12から14のいずれか一項に記載のペプチド。

【請求項16】

レドックスモチーフ配列が、H-C-X(2)-[CST][配列番号101]又は[CST]-X(2)-C-H[配列番号102]である、請求項12から15のいずれか一項に記載のペプチド。

【請求項17】

レドックスモチーフが、H-C-X(2)-C[配列番号48]又はC-X(2)-C-H[配列番号42]である、請求項12から16のいずれか一項に記載のペプチド。

【請求項18】

前記エピトープが、MOG NKTエピトープFLRVPCWKIを含む、請求項12から17のいずれか一項に記載のペプチド。

【請求項19】

配列GGFLRVPCWKI[配列番号85]を含む；配列CGPCGGFLRVPCWKI[配列番号86]を含む；配列HCGPCGGFLRVPCWKI[配列番号87]を含む；又は配列WCGPCGGFLRVPCWKI[配列番号88]を含む、請求項12から18のいずれか一項に記載のペプチド。

【請求項20】

結合ペプチドエピトープを有する抗原を提示する細胞に対して細胞溶解性であるNKT細胞の集団を得るための方法であって、

- 末梢血細胞を提供する工程と、
 - 前記細胞を、[FWYHT]-X(2)-[VILM]-X(2)-[FWYHT][配列番号60]配列モチーフを有する抗原のCD1d結合ペプチドエピトープと、前記エピトープに直接接している又は前記エピトープから最大で7アミノ酸により隔てられた[HW]-X(0,2)-C-X(2)-[CST]([配列番号1]、[配列番号2]、[配列番号3])若しくは[CST]-X(2)-C-X(0,2)-[HW]([配列番号4]、[配列番号5]、[配列番号6])レドックスモチーフ配列とを含む、12～100アミノ酸の免疫原性ペプチドと、インビトロで接触させる工程と、
 - 前記細胞をIL-2の存在下で拡大する工程と
- を含む方法。

【請求項 2 1】

ペプチドを調製するための方法であって、

- [FWYHT]-X(2)-[VILM]-X(2)-[FWYHT][配列番号60]配列モチーフを有する配列を抗原内で同定する工程と、
 - 上記の同定された配列と、直接接している又はそこから最大で7アミノ酸により隔てられた[HW]-X(0,2)-C-X(2)-[CST]([配列番号1]、[配列番号2]、[配列番号3])若しくは[CST]-X(2)-C-X(0,2)-[HW]([配列番号4]、[配列番号5]、[配列番号6])レドックスモチーフ配列とを含む、12～100アミノ酸のペプチドを調製する工程と
- を含む、方法。

【請求項 2 2】

[FWYHT]-X(2)-[VILM]-X(2)-[FWYHT][配列番号60]配列モチーフを有する抗原のCD1d結合ペプチドエピトープと、前記エピトープに直接接している又は前記エピトープから最大で7アミノ酸により隔てられた[HW]-X(0,2)-C-X(2)-[CST]([配列番号1]、[配列番号2]、[配列番号3])若しくは[CST]-X(2)-C-X(0,2)-[HW]([配列番号4]、[配列番号5]、[配列番号6])レドックスモチーフ配列とを含む、12～100アミノ酸の単離免疫原性ペプチドの有効量を含む、対象における多発性硬化症の予防または治療のための医薬組成物。

【請求項 2 3】

前記エピトープが、MOG NKTエピトープFLRVPCWKIを含む、請求項22に記載の組成物。

【請求項 2 4】

前記ペプチドが、配列GGFLRVPCWKI[配列番号85]を含む；配列CGPCGGFLRVPCWKI[配列番号86]を含む；配列HCGPCGGFLRVPCWKI[配列番号87]を含む；又は配列WCGPCGGFLRVPCWKI[配列番号88]を含む、請求項22または23に記載の組成物。